

栽培指針（平成27年度産JAおおぞら肥料・農薬・資材注文書添付用）

ミニトマト 【品種】 キャロルパッション・キャロル10（サカタ）

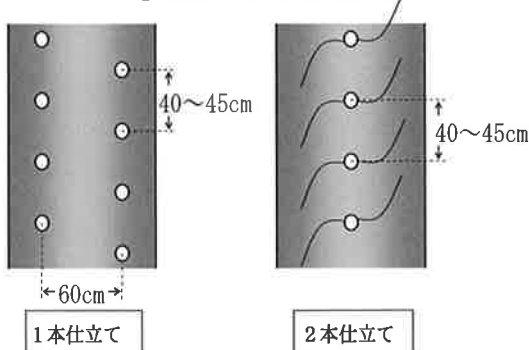
目標収量：1型 5,000kg・2型 4,000kg/10a

月	3	4			5			6			7			8			9			10			11											
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下									
1型		二重トンネル			遮光																													
2型		4/5																																
3型		4/20																																
3.5型		5/15	遮光																															
		6/15																																
作業内容 (1型)	定植準備	定植	第1段花房開花	第2段花房開花	第3段花房開花	誘引整枝	収穫開始	夜間換気開始	数回	つる下げ																								

1. 植栽基準（間口6mハウス）

仕立て型	畝数	畝内の条数	株間※	10a 当りの株数
1本仕立て	3	2 + 1 + 2 条	40~45cm	1,840~2,070株
2本仕立て	3	1 + 1 + 1 条	40~45cm	1,110~1,240株

【定植位置の比較】



※株間：1～3型 45cm
3.5型 40cm

【2本仕立ての方法】

主枝と第1段花房直下の強いわき芽、または主枝を摘心し伸び出たわき芽2本を伸ばす

2. 施肥基準（kg/10a）

【Aタイプ（普通肥料タイプ）】

肥料名	方法	総量	基肥	追肥		備考
				草勢に応じ14日間隔で施肥		
BB グリーン1号		120	120	1回目30kg 2回目以降40kg		・土壌に養分が蓄積している場合は、グリーン1号を減らす。 ・追肥は、第1段花房収穫始め頃より開始し、最終追肥は9月中旬頃。
BB 有機8		230				
F T E		4	4			
苦土重焼燐		30	30			
マグフミン		100	100			
堆肥		2,000	2,000			

【 Bタイプ (複合肥料タイプ)】

肥料名	方法	総量	基肥	追肥	備考
				草勢に応じ14日間隔で施肥	
BB 特422号(140)		60	60	1回当たり15kgを目安	・追肥は、第1段花房収穫始め頃より開始し、最終追肥は9月中旬頃。 ・養分が蓄積したハウスでは堆肥の代わりにモミガラを使う。
液肥 10号		75			
堆肥 (モミガラ)		500 (10m ³)	500 (10m ³)		

※栽培経験の長いハウスでは苦土石灰、溶りんは不要。栽培経験の浅いハウスでは苦土石灰100kg/10a、溶りん35kg/10a程度を施用する。

3. 病害虫防除基準

(平成26年12月3日時点)

対象病害虫	薬剤名	安全使用基準			備考
		希釈倍率	収穫前日数(～まで)	使用回数(以内)	
灰色かび病 葉かび病	ベルコート水和剤	6,000倍	前日	2回	150～300L/10a
灰色かび病 斑点病 輪紋病	ロブラール水和剤	1,000～1500倍 1,000倍	前日	合計3回	
葉かび病 すすかび病	トリフミン水和剤	3,000～5000倍 3,000倍	前日	合計5回	100～300L/10a
輪紋病 疫病 すすかび病	Zボルドー	400～600倍 500倍	—	—	100～300L/10a
アブラムシ類 コナジラミ類 マメハモグリバエ	ダントツ粒剤	1～2g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和
コナジラミ類 ハモグリバエ類 アブラムシ類	スタークル粒剤	1～2g/株 1g/株	定植時	合計1回	植穴土壌混和
アブラムシ類 コナジラミ類	アドマイヤー1粒剤	1～2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和
オオタバコガ トマトサビダニ マメハモグリバエ	アフーム乳剤	2,000倍	前日	5回	100～300L/10a
着果、果実肥大 熟期の促進	トマトトーン	低温時(20℃以下)50倍 高温時(20℃以上)100倍	開花前3日 ～ 開花後3日位	1花につき1回	散布

※ 農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し使用基準を守って使用すること。
 ※ 散布後はタンク、ノズル内に農薬が残らないよう、しっかり洗浄すること。
 ※ 防除は、他の作物へ農薬が飛散しないよう注意して行うこと。